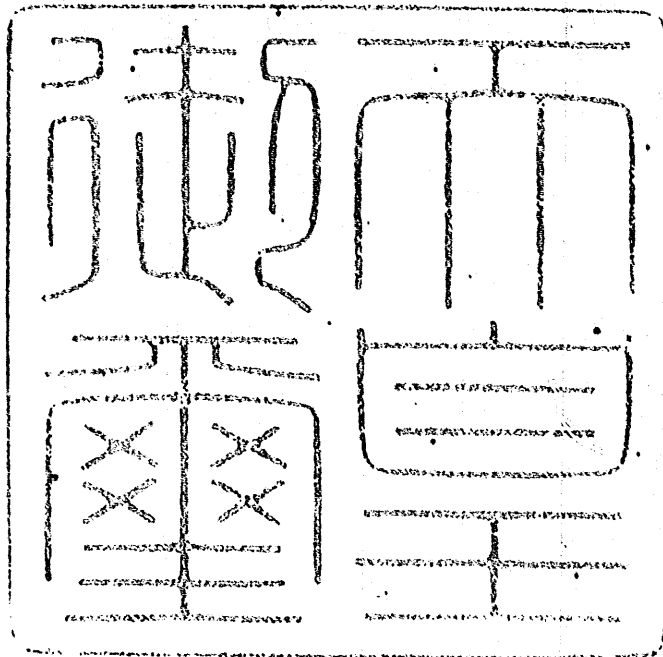


法律第十五号

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル遠洋航路補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

睦仁



明治四十二年三月二十四日

内閣總理大臣侯爵桂 太郎
遞 信大臣男爵後藤新平

法律第十五號

遠洋航路補助法

第一條 主務大臣ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ運送業ヲ營ム者ニ本法ニ依リ航海補助金ヲ支給シ五年以内ノ期間ヲ限り左ノ遠洋航路ニ於テ定期航海ニ從事セシムルコトヲ得但シ補助金額及年限ニ付テハ帝國議會ノ協賛ヲ求ムヘシ

一 歐洲航路
 二 北米航路
 三 南米航路
 四 濠洲航路
 本法ニ於テ補助航海ト稱スルハ前項
 依ル定期航海ヲ謂フ
 第二條 補助航海ニ使用スル船舶ハ總
 噸數三千噸以上ニシテ一時間十二海
 里以上ノ速力ヲ有シ主務大臣ノ定ム
 ル造船規程ニ合格シ且帝國船籍ニ登

録シタル船舶十五年内ノ鋼製汽船
 限ル
 船舶ノ速力ハ主務大臣ノ定ムル方法
 依リ之ヲ算定ス
 第三條 外國製造ノ船舶ハ補助航海ニ
 使用スルコトヲ得ス但シ帝國船籍ニ
 登録ノ際船齡五年以内ノ船舶ニシテ
 已ムヲ得サル事由ニ因リ其ノ使用ニ
 關シ主務大臣ノ認可ヲ得タルモノハ
 此ノ限ニ在ラス

第四條 航海補助金ハ使用船舶總噸數
 一噸航海里數一千海里ニ付速力一時
 間十二海里ヲ有スルモノニ對シ五十
 錢以内速力一時間一海里ヲ増ス毎ニ
 其ノ百分ノ十ヲ増シタル金額以内ニ
 於テ航路ノ狀況ニ應シ之ヲ支給ス但
 シ船齡五年ヲ超ユル船舶ニ對シテハ
 一年毎ニ其ノ百分ノ五ヲ遞減ス
 外國製造ノ船舶ニ對シテハ前項ノ規
 定ニ依リ支給スヘキ航海補助金ノ半

額ヲ支給ス
 特ニ主務大臣ノ認可ヲ得タル設計ニ
 依リ製造シタル船舶又ハ定期航海ノ
 開始後五年ヲ經過セサル航路ニ使用
 スル船舶ニ對シテハ前二項ノ規定ニ
 依リ支給スヘキ航海補助金ノ百分ノ
 二十五以内ヲ増給スルコトヲ得
 航海補助金ノ算定ニ於テハ航海里數
 ハ各港間ノ最近航路ニ依リ一噸未滿
 又ハ一海里未滿ノ端數ハ之ヲ除算ス

第五條 補助航海ニ於ケル旅客貨物ノ運賃ハ主務大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ定ムヘシ

主務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ種類ヲ指定シ旅客貨物ノ運賃ヲ低減セシムルコトヲ得

第六條 補助航海ニ使用スル船舶ニハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ郵便物及郵便用品ヲ無賃ニテ搭載シ無線電信ノ通信ニ關スル設備ヲ爲シ且通信事

務又ハ航路視察ノ爲主務大臣ノ派出スル吏員ヲ無賃ニテ乗船セシムヘシ

第七條 補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ定期航海ノ維持ニ必要ナル施設ヲ爲スヘシ

第八條 補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ左ノ割合以内ニ於テ其ノ費用ヲ以テ航海修業生ヲ使用船舶ニ乗組マシムヘシ
總噸數三千噸以上五千噸未満 四人

總噸數五千噸以上八千噸未満 五人
總噸數八千噸以上 六人

第九條 補助航海ニ従事スル者ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ外國人ヲ其ノ本店若ハ支店ノ事務員又ハ使用船舶ノ職員ト爲スコトヲ得ス外國ニ於テ死亡其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ使用船舶ノ職員ニ關員ヲ生シタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ補フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ

補助航海ニ従事スル者又ハ船長ヨリ直ニ主務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十條 補助航海ニ従事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ補助航海ニ關スル收支計算書及營業狀況報告書ヲ提出スヘシ
主務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ補助航海ニ従事スル者ノ本店支店代理店又ハ使用船舶ニ吏員ヲ派遣シ其ノ收支計算及營業狀況ヲ監査ヒシム

ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ補助航海ニ従事
スル者ハ當該吏員ノ求ムル所ニ從ヒ
業務上一切ノ事項ヲ開申シ帳簿其ノ
他一切ノ文書ヲ檢閲ニ供スヘシ

第十一條

主務大臣ハ相當ノ補償金額
ヲ定メ補助航海ニ使用スル船舶ヲ公
用ノ爲收用又ハ使用スルコトヲ得
補助航海ニ使用シタル船舶ニ付テハ
最終ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三年間

仍前項ノ規定ヲ適用ス

補償金額ニ對シ不服アル者ハ收用又
ハ使用ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月
以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ
得

前項ノ出訴ハ船舶ノ收用又ハ使用ヲ
停止セス

第十二條

補助航海ニ使用スル船舶ハ
航海補助金ヲ受ケテ航海スル期間及
最終ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三年間

之ヲ外國人ニ讓渡シ、貸渡シ又ハ擔保
 供スルコトヲ得、但シ其ノ船舶ニ
 對シ支給シタル航海補助金ヲ償還シ
 タルトキ、天災其ノ他ノ不可抗力ニ因
 リ航行ニ堪ヘザルトキ又ハ主務大臣
 ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラ
 ス

第十三條 左ノ事項ハ主務大臣之ヲ定

- 一 補助航海ノ起點、終點及寄港地

- 二 使用船舶ノ數、總噸數、速力、船齡及
代船ニ関スル事項
- 三 航海度數、航海日數及發著日時ニ
関スル事項
- 四 航海補助金ノ支給方法
義務ノ不履行ニ基キ航海補助金
ノ減給、停止、廢止、償還又ハ其ノ他
ノ處分ニ関スル事項
- 第十四條 主務大臣ハ補助航海ニ從事
スル者ノ義務ニ屬スル事項ニ付テハ

直ニ其ノ代理人又ハ船長ニ命令ヲ下
スコトヲ得

第十五條 第十一條ノ規定ニ依ル船舶
ノ收用若ハ使用ヲ拒ミタル者又ハ第
十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百
圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ且當該
船舶ニ對シ支給シタル航海補助金ニ
相當スル金額ヲ償還セシム
前項償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依
リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特

權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第十六條 明治三十三年法律第五十二

號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命

令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ

施行ス

航海獎勵法ハ之ヲ廢止ス但シ本法公布

ノ際同法ニ依リ航海獎勵金ヲ受クル資

格ヲ有スル船舶及同法ノ適用ヲ受クル

為製造中ノ船舶ニ関シテハ明治四十七
年九月三十日迄同法ニ依リ航海獎勵金
ヲ受クルコトヲ得
前項但書ノ規定ニ依リ航海獎勵金ヲ受
ケタル船舶ニ對シテハ本法ニ依リ航海
補助金ヲ支給セス
明治三十二年九月三十日以前ニ於テ帝
國船籍ニ登録シタル外國製造ノ船舶ニ
關シテハ第四條第二項ノ規定ヲ適用セ
ス